

第64期 中間株主通信

2021年2月1日～2021年7月31日



軽井沢プリンスホテル ウェスト



株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長 高橋 貴志

■上半期を振り返って

当第2四半期連結累計期間(2021年2月1日～2021年7月31日)における我が国経済は、引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、経済活動が制限されたこと等により、依然として厳しい状況にあります。また、感染拡大の収束時期は未だ見通せず、先行きは不透明な状況にあります。

当ディスプレイ業界の事業環境につきましても、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済活動の制限の長期化により、個人消費、観光投資及び企業の販促投資等が停滞しているため、需要は大幅に減少し、依然として厳しい状況にあります。

このような状況のもと当社グループは、従業員並びに当社関係者の安全確保を最優先に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮した上で、中期経営計画(2022年1月期～2024年1月期)に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による環境変化に柔軟に対応しながら、早期の業績回復の実現と更なる企業価値の向上を目標に事業活動を展開してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は268億32百万円(前年同四半期比26.9%減)となり、営業利益は75百万円(前年同四半期比97.8%減)、経常利益は2億7百万円(前年同四半期比94.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は45百万円(前年同四半期比98.1%減)となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の受注高は299億16百万円(前年同四半期比16.1%減)となりました。

■通期の見通し

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症の収束時期の見通しが立っていないため、先行きの不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境につきましても、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済活動の制限の長期化により、個人消費、観光投

資及び企業の販促投資等が停滞するなど、依然として厳しい状況が続いております。

なお、2022年1月期通期の連結業績予想につきましては、売上高の進捗は予想を下回っておりますが、利益面については概ね堅調に推移しているため、前回の予想から変更はありません。

■中期経営計画(2022年1月期～2024年1月期) (百万円)

売上高	営業利益	営業利益率 (%)	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	ROE (%)
2022年1月期 計画					
68,000	2,000	2.9	2,150	1,410	4.8
2023年1月期 計画					
79,000	4,200	5.3	4,350	2,910	9.8
2024年1月期 計画					
84,000	5,800	6.9	5,920	3,990	12.7

なお、当該中期経営計画(2022年1月期～2024年1月期)は、東京オリンピック・パラリンピックが予定通り開催されること及び新型コロナウイルス感染症は2022年1月期中に収束することを前提に策定しております。

■配当金について

当期の中間配当金は、1株当たり13円とさせていただきます。また、期末配当金は、1株当たり13円を予定しており、年間配当金は、1株当たり26円となる見込みです。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年10月

商業その他施設事業

連結売上高 **119億 8百万円** (前年同四半期比 42.6%減)

セグメント損失 **4億 89百万円** (前年同四半期は22億78百万円のセグメント利益)

商業その他施設事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う経済活動の制限の長期化により需要が減少し、主に商業施設、エンターテインメント施設及び空港関連施設等の新改装案件が減少したこと等により、売上高、セグメント利益ともに前年同四半期を下回りました。



春華堂本社複合施設「スイーツバンク(SWEETS BANK)」

チェーンストア事業

連結売上高 **93億 4百万円** (前年同四半期比 13.2%減)

セグメント利益 **2億 41百万円** (前年同四半期比 64.3%減)

チェーンストア事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化していることによる市場環境の悪化等により、売上高、セグメント利益ともに前年同四半期を下回りました。



LAKOLE シャポール本八幡

文化施設事業

連結売上高 **54億 60百万円** (前年同四半期比 7.5%増)

セグメント利益 **3億 4百万円** (前年同四半期比 33.9%減)

文化施設事業においては、売上高は、前年同四半期並みとなったものの、セグメント利益については、収益性の高い案件が減少したこと等により、前年同四半期を下回りました。



日立シビックセンター科学館サクリエ

その他

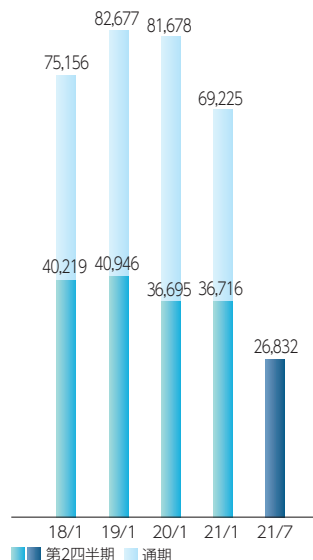
連結売上高 **1億 59百万円** (前年同四半期比 9.3%減)

セグメント利益 **36百万円** (前年同四半期比 49.7%減)

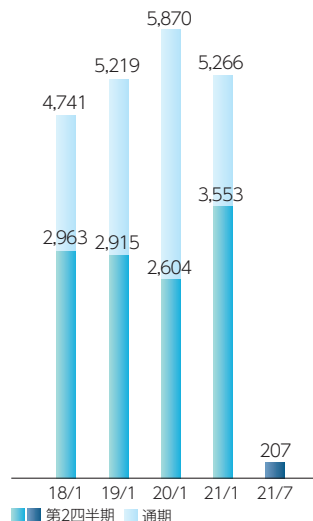
その他においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ディスプレイ業以外の事務サービス等についても需要が減少したため、売上高、セグメント利益ともに前年同四半期を下回りました。

連結財務ハイライト

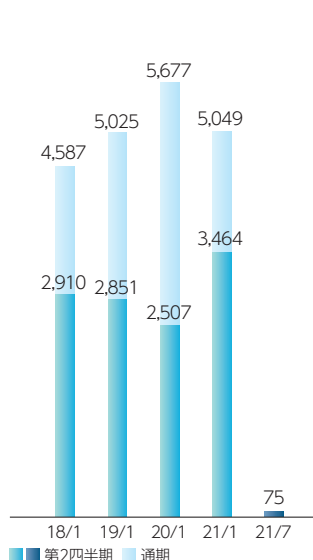
売上高 (単位:百万円)



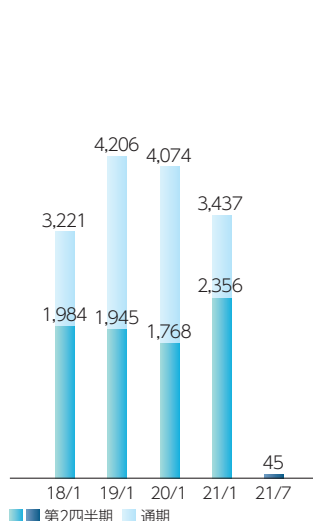
経常利益 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (単位:百万円)



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末	当第2四半期末
	2021年1月31日現在	2021年7月31日現在
流動資産	35,457	36,732
固定資産	7,100	7,383
流動負債	12,783	14,630
固定負債	525	722
純資産	29,248	28,763
総資産	42,557	44,116

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期	当第2四半期
	自2020年2月1日 至2020年7月31日	自2021年2月1日 至2021年7月31日
売上高	36,716	26,832
売上原価	28,934	22,196
売上総利益	7,782	4,636
営業利益	3,464	75
経常利益	3,553	207
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,356	45

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期	当第2四半期
	自2020年2月1日 至2020年7月31日	自2021年2月1日 至2021年7月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	3,612	893
投資活動による キャッシュ・フロー	△223	647
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,025	△825
現金及び現金同等物の 四半期末残高	16,256	18,696

詳細な財務情報は、当社ウェブサイトIR情報をご覧ください。

アドレスはこちら▼

<https://www.tanseisha.co.jp/ir/>

大自然とつながる森のリゾート「軽井沢プリンスホテル ウェスト」



歴史ある避暑地にふさわしい上質なホテル空間

長野県軽井沢の美しい森に佇むリゾートホテル「プリンスグランドリゾート軽井沢」内に2021年4月、「軽井沢プリンスホテル ウェスト」がリニューアルオープンしました。「Nature-Link(自然とつながるホテル)」という全体コンセプトのもと、本プロジェクトで当社は、新客室棟の客室、新温泉棟のラウンジ・フィットネス・更衣室、既存棟のロビー・客室の空間デザインを担当。歴史ある避暑地にふさわしい、上質で洗練されたタイムレスな空間づくりを実現しました。

生まれ変わった「軽井沢プリンスホテル ウェスト」は、四季折々の森を眺め、自然に溶け込むような滞在を楽しむことができるリゾートホテルです。宿泊客を出迎えるロビーは、木の温もりが溢れるナチュラルモダンな大空間。パブリックスペースや廊下の随所には軽井沢の春夏秋冬を感じさせるモチーフが散りばめられ、森の中に足を踏み入れたかのような印象です。また、落ち着いたカラーでまとめられた新棟の客室は、自然を感じさせるさまざまなアートワークに彩られ、安らぎのひとつをお楽しみいただけます。庭に面した温泉棟のラウンジは、天井や家具、アートワーク等に木がふんだんに取り入れられ、思い思いの時間を過ごす癒しの空間に。ホテル全体が周囲の自然と結ばれ、豊かな時間を心から楽しむことができる設えになっています。



全体コンセプトを紐解き、エリアごとにデザインテーマを設定

本プロジェクトについて最初にお話をいただいたのは、2019年3月のことです。まずは全体コンセプトの「Nature-Link」を紐解き、エリアごとのデザインテーマを設定することからスタートしました。

既存棟客室デザインのテーマは「Brilliant(光の輝き)」。木漏れ日のような柔らかな光をイメージしたカラーデザインとしました。続く既存棟ロビーのデザインのテーマは「Phantasmagoria(自然の移ろい)」。既存の石積みの柱や大理石の壁面、羽目板の木天井など、本物の自然素材が時とともに深みを増す質感を活かし、土の質感や風がモチーフのアートや照明などを新しく加えました。軽井沢の自然がテーマの深みのある空間に仕上げました。

新たに建てられた新客室棟と新温泉棟は深い緑に囲まれた立地であることから、「Silva(林の木立)」をテーマとしました。客室や廊下には木々や葉のデザイン、さらに軽井沢の町鳥であるアカハラをイメージしたオレンジのシルエットを模したレリーフが飾られ、目を和ませます。リニューアルを機にファミリー、グループのレジャー利用に加え、MICE利用やワーケーション滞在も想定し、客室の仕様にも快適に過ごすための工夫を随所に盛り込んでいます。プライベートに配慮したレイアウトや、ご利用人数を問わず全員が快適に過ごせる機能性を提案し、高い評価をいただきました。このほか、温泉棟のラウンジエリアはもみじ山を望む立地にちなみ、紅葉のモチーフやカラーを取り入れるなど細部まで工夫を凝らし、リゾート感あふれる上質な空間を実現しました。

海外協力会社との連携、リゾートホテルの設計・施工の経験は大きな財産に

最も工夫を要した課題は、「スケジュール」と「予算」でした。既存棟客室の改装では、コロナ禍による緊急事態宣言が重なったため、現場への出張を減らし、現地の建設会社との打合せもリモートで対応しました。特注家具の制作はコスト面で優れた海外の協力会社と連携。限られた日数の中、コロナ禍による輸送スケジュールの遅れも想定した予定を組んで対応しました。また、日本と海外では家具の構造や製法も異なるため、家具の強度やデザインディティールの許容範囲を慎重に見極める必要がありました。デザイナーと制作が密に連携することで、コストコントロールと品質確保の両立を実現しました。この経験により、品質の高い家具を海外でも制作可能なこと、海外発注におけるリスク、スケジュール上で配慮すべきポイントなど、多くの知見が得られました。また、本プロジェクトでは、プロジェクトの序盤から工務部と連携し、材料や工法、協力会社の選定などのアドバイスを受けることで、コストと品質をコントロールできました。部門横断的なチームワークの成果といえます。

さらにプリンスホテル様からのご提案で、サステナブルな取り組みにも挑戦できたことは、貴重な経験でした。アートワークや客室のアメニティレイ等には、新棟建設に伴う伐採木を再利用しました。また、地場の材料を優先的に利用することのご意向から温泉棟の天井板には軽井沢産アカマツを使用。ラウンジのシンボリックなアートワークは伐採木と浅間石を使って制作しました。

リゾートホテルの新棟も含む大型プロジェクトという得難い機会に、設計から施工までトータルに携われたこと、若手社員も活躍し成長につながったことは、またとない経験になりました。さらに、数多くの制約があった中で新たな取り組みにも挑戦しつつ本プロジェクトをやり遂げ、プリンスホテル様の格式にふさわしい空間にできたことは、当社にとって大きな財産になりました。本プロジェクトを通じて得られた知見とノウハウは、今後ホテルに限らずさまざまな空間づくりに活かしていくことができると考えております。

プロジェクトに携わったメンバー



デザイン
石井康祐

デザイン
小川瑛美

制作
青木将也

営業
大淵怜

営業
嵐田朱里

建材・装飾材等の廃番品専門ECサイト「4earth」のサービスを開始しました

当社は、建材・装飾材等の廃番品を専門に販売するウェブサービス「廃番品セレクトショップ『フォーアース(4earth)』(以下「フォーアース」)を開始しました。



4earthウェブサイト 商品ページ URL: https://4-earth.jp

「フォーアース」は、技術の進歩やトレンドの移り変わりにより販売中止となった建材、照明器具、装飾材等の有効活用を目的に立ち上げた廃番品専門ECサイトです。さまざまな分野の空間づくりに携わってきた丹青社が各メーカーと協力し、廃番品を空間デザインの視点からセレクトし集約することで、再度商流に乗せ、広く活用を促します。

当社は本取り組みを通じ、本業である空間づくり事業の課題のひとつである産業廃棄物の発生抑制やCO₂排出量の削減につなげ、2030年までに達成すべきSDGs(持続可能な開発目標)、2050年の脱炭素社会実現に貢献いたします。

築古不動産をリノベーションし再活性化する新規事業を始動しました

当社は、東京都心部にある中小規模の築古不動産を再活性化する「R2(アールツー)プロジェクト(R2:Real-estate Revitalization/不動産再活性化)」を始動しました。丹青社がこれまで培ってきた空間づくりのノウハウとネットワークを活用して、中小規模の築古ビルをより動きやすい環境のオフィスへとリノベーションし、不動産価値を向上させる新規事業です。リノベーション後のビルは、賃貸オフィスとしての運用または投資家への売却により収益化を図ります。



第1号物件「W2 KODENMACHO」外観。「Wellbeing Workplace」をコンセプトに、「個人」「組織」「企業」「社会」すべての観点からWellbeingを実現することを理念としています。

当社は本プロジェクトを通じ、循環型経済の実現に寄与するとともに、新たなにぎわいの創出と、住み続けられるまちづくりへの貢献を目指してまいります。

ウェブサイトのご案内

当社のウェブサイトでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示を行っております。

当社をよりご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。

<https://www.tanseisha.co.jp>



会社概要 (2021年7月31日現在)

商号 株式会社丹青社
 設立 1949年10月14日
 資本金 40億2,675万657円
 従業員数 1,047名(連結:1,429名)

役員 (2021年7月31日現在)

代表取締役社長 高橋 貴志
 取締役専務 徳増 照彦
 取締役常務 戸高 久幸
 取締役常務 小林 統
 取締役 中島 実
 取締役 篠原 幾徳
 取締役 森永 倫夫
 社外取締役 板谷 敏正

取締役 常勤監査等委員 河原 秀司
 社外取締役 監査等委員 松崎 也寸志
 社外取締役 監査等委員 新島 由未子
 社外取締役 監査等委員 吉井 清信

株式の状況 (2021年7月31日現在)

株式の総数
 発行可能株式総数 187,200,000株
 発行済株式総数 48,424,071株
 株主数 13,747名
 大株主

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,774千株	7.86%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,034	6.31
丹青社取引先持株会	2,497	5.2
第一生命保険株式会社	1,907	3.97
株式会社三井住友銀行	1,500	3.12
株式会社三菱UFJ銀行	1,482	3.08
日本生命保険相互会社	1,446	3.01
丹青社従業員持株会	1,401	2.91
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	1,233	2.56
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,089	2.26

※持株比率は、自己株式(317,500株)を除いて算出しております。

株主メモ

事業年度 2月1日から翌年1月31日まで
 配当金受領株主確定日 期末配当1月31日/中間配当7月31日
 定時株主総会 毎年4月
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 東京都府中市日鋼町1-1
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 Tel.0120-232-711(通話料無料)
 同郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 上場金融商品取引所 東京証券取引所 市場第一部
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <https://www.tanseisha.co.jp/>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com/>
 アクセスコード 9743

いいかぶ 検索

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2か月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。(1809)

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
 MAIL: info@e-kabunushi.com

撮影:御園生大地、PIPS、木澤淳一郎、鈴木賢一

ここを動かす空間をつくりあげるために。

株式会社 丹青社

〒108-8220 東京都港区港南一丁目2番70号
 Tel. 03(6455)8100(代表)
 Fax. 03(6455)8220(代表)

